

《ミャンマー:クーデター関連》

1. 一方的停戦を9月末まで延長、国軍が発表

ミャンマー国軍は7月 31 日、少数民族武装勢力に対する一方的な停戦期間を2カ月延長し、新たな期限を9月 30 日にすると発表した。声明では停戦延長の理由について、「少数民族武装勢力との和平協議推進と、国内で拡大する新型コロナウイルス対策の強化に注力するため」と説明している。停戦の対象から、国軍や治安部隊、行政機構が攻撃を受けた場合を除外した。国軍は2020年5月に、新型コロナの感染拡大防止を目的に、期限付きの停戦を宣言。今年2月のクーデター後も延長を繰り返してきたが、一部の少数民族武装勢力との衝突は各地で激しくなっている。

2. ミンダットで高まる緊張、全面戦争突入か

ミャンマー北西部チン州ミンダットで、民主派の市民がつくる防衛組織「チンランド防衛隊(CDF)」と国軍が一触即発の状況になっている。CDFが先月末に国軍の指揮官を殺害したことがきっかけだ。CDFは、民主派でつくる挙国一致政府(NUG)からの指示があれば、全面戦争に突入する構えを見せている。亡くなった国軍の指揮官はゾー・ゾーソー中佐(48)。CDFの報道官によれば、ミンダットと同州マトゥピを結ぶ高速道路沿いで同 30 日に起こったCDFと国軍の衝突で、同中佐を含む国軍兵士ら10人が死亡した。この事件以降、国軍が援軍を派遣するなどミンダットでは緊張が高まっている。CDFは「NUGからの国軍に対する全面攻撃開始の指示を待っている段階」とした一方で、「国軍がわれわれの支配地域に侵入した場合は、即座に攻撃を開始する」と述べた。NUGが国防相に任命したイー・モン氏は7月、「民主派が主導する国民防衛隊(PDF)の隊員、約 8,000 人が月末までに戦闘訓練を終える」と説明。「国軍に一斉攻撃を仕掛ける準備が整うまで待機するよう、全国のPDFに指示した」と明らかにした。NUGと緊密に連携している最大都市ヤンゴン東部を拠点とするPDFの報道官は先月「全面的な戦争が近づいている」と話していた。ミンダットとマトゥピを結ぶ高速道路での戦闘は7月 21 日に始まり、約2週間で国軍兵士 26 人、CDF隊員 15 人が死亡したと報告されている。

3. 民主派政府に不満も、中部の自衛組織から

ヤンゴンなどを中心に活動する自衛組織「ユニオン・ディフェンス・アンド・リベレーション・アライアンス(UDLA)」は2日、民主派が発足させた「挙国一致政府(NUG)」に対し、国内の自衛組織への支援が十分ではないと批判した。UDLAは、2月の軍事クーデター以降、国軍の弾圧から市民を守るために設立された自衛組織。ヤンゴンや第2の都市があるマンダレー管区、中部バゴ管区を中心に活動している。声明では、「中部マグウェー管区のヨー(YAW)地区で、民主活動を支援する自衛組織があるにもかかわらず、NUGは不誠実な対応を取っている地方政府の味方をしている」と指摘。NUGの閣僚に対し、2月から市民の護衛に奮闘している「ヨー防衛隊」を全面的に支援するよう訴えた。また、NUGの国防省が資金難から国内の自衛組織に十分な資金援助ができていないとし、UDLAも援助を受けたことはないと説明。UDLAはこの点については、「国防省の大変さは理解している」と述べている。

4. 衝突発生時のザガイン、40人殺害が明らかに

民主派と国軍の衝突が続くミャンマー北西部ザガイン管区のカニ郡区で7月、約 40 人が国軍により殺害されていたことが分かった。地元住民によると、同郡区タウンパウ(Taung Pauk)村で7月 30 日、14 歳の少年を含む 12 人の遺体が発見された。遺体には拷問の跡がみられたほか、焼かれたものもあったもよう。同地域には国軍兵士

が現在もとどまっているため、全ての遺体を回収できていないという。国軍は同 26 日、タウンパウ村とタイエトー (Thayet Taw) 村に入り、民主派が主導する「国民防衛隊(PDF)」に協力したとして、12 人を拘束していた。イラワジによると、カニ郡区では 11 日と 12 日に計 16 人、28 日に 7 人、29 日に 5 人の遺体がそれぞれ発見されている。ある弁護士は「殺害された住民は武装反乱軍だったと国軍は主張するかもしれないが、彼らは銃撃戦で撃たれたわけではない」と説明。「遺体には拷問の跡があり、意図的に隠されていた」とした上で、「これは戦争犯罪である」と強調した。昨年 11 月の総選挙の際、カニ郡区では国民民主連盟(NLD)が圧勝。同党の候補者全員が当選していた。同郡区は、2月1日の軍事クーデター後、最も早く抗議活動を始めた地域の1つだった。

## 5. 北部で希土類違法採掘、労働問題など懸念

ミャンマー北部カチン州の中国国境付近で2月1日の軍事クーデター以降、レアアース(希土類)の違法採掘が急増し、採掘労働者の健康問題や、現場での環境破壊への懸念が高まっているようだ。カチン州のレアアースの採掘現場は、国軍を後ろ盾とする少数民族武装勢力の旧カチン新民主軍(NDAK)と中国人投資家の支配下にあり、中国人の採掘業者も急増している。2017~18年にカチン州の森林地帯でレアアースの採掘作業をしていた労働者2人によると、採掘で使用される化学物質のラベルなどは中国語で書かれており、成分について説明を受けることもなかった。労働者の1人が手袋越しに化学物質に触れた際には、わずかにやけどのような感覚があったという。別の労働者は、「給料は良かったが、健康を害する懸念があった。多くの労働者は1~2カ月で辞めていた」と話した。レアアースの採掘現場では、環境破壊への懸念も高まっている。フロンティアなどの取材によれば、採掘作業によって土壌や水資源が汚染され、地滑りを引き起こしている。地元住民は健康被害を恐れ、現場近くで水を飲んだり、水浴びしたりするのを避けているという。英国に拠点がある非政府組織(NGO)「グローバル・ウィットネス(GW)」はカチン州のレアアースの採掘現場について、「法の支配が相対的に弱い地域」と指摘した上で、「基本的な環境基準を満たしていない」と指摘した。ミャンマーではクーデター以降、前与党の国民民主連盟(NLD)による取り締まりが停止され、中国企業による違法採掘が活発になっているとみられている。

## 6. 預金の引き出し制限を緩和＝コロナ治療目的で－ミャンマー中銀

ミャンマー中央銀行は、預金の引き出し制限を緩和すると発表した。新型コロナウイルス患者の治療に便宜を図るための措置。ミャンマー中銀の国内銀行に対する7月28日付通達によると、3月1日から預金の引き出し上限を個人には週200万チャット、企業・団体に対して週2000万チャットと制限していたが、これを緩和し銀行の判断により制限を超えて引き出しを許可するとした。制限を超えて引き出しを希望する場合は、新型コロナ患者の治療に必要であることを証明する資料を提出しなければならない。

## 7. 為替レート安定のため入札による固定相場制に変更

ミャンマー中央銀行はドル・チャット為替レートを安定させるため、現在の管理変動相場制から入札による固定相場制に変更すると発表した。3日に行われた政府系銀行、民間銀行、外国銀行との会議で決まった。会議にはミャンマー中央銀行のウイン・トー副総裁、外貨管理部の総局長、政府系銀行、民間銀行、外国銀行など44行の代表者がオンライン形式で参加。ウイン・トー副総裁から、ドル・チャット為替レートが不安定なため経済に悪影響を与えていることを踏まえ、新型コロナウイルスの感染が急速に拡大している時期に物価が上昇するのを避けるため、今後は中央銀行が主催する入札で為替レートを決定し、売り買いの差額を基準レートの1%以内から±0.8%に変更することが提案され、全銀行が同意した。

## 8. 軍評議会、自首すれば逮捕状を取り下げると発表

ミャンマー軍評議会は3日、軍評議会に対する抗議デモや市民不服従運動(CDM)に参加したため逮捕状が出ている市民に対して、自首すれば逮捕状を取り下げると発表した。発表によると、多くの善良な市民が連邦議

会代表委員会(CRPH)、国民統一政府(NUG)、人民防衛隊(PDF)などの民主化組織によって扇動され、抗議デモや市民不服従運動に参加し逮捕状が出ているため、辺境地域などに身を隠し困難な生活を送っている。そうした市民が元の生活に戻ることを希望しているため、軍評議会は各管区・州に連絡事務所を設置し、電話で相談するよう呼びかけている。殺人、放火、爆破などの破壊行為、警察隊や国軍兵士に対する攻撃、暴力に関わっておらず、市民不服従運動の主導者などを除く市民は自首することで逮捕状を取り下げ、元の生活に戻ることができるとしている。

## 《新型肺炎関連情報》

### ◎タイ

#### 1. 海運協会、コンテナ不足で輸出鈍化を懸念

タイ海運業者協会(TNSC)は、コンテナ不足による海上輸送費上昇、労働者不足による輸出の鈍化を懸念している。現状では、輸出のみが経済回復のけん引役として期待できるため、TNSCのチャイチャン会長が先月行われた海運業のシンポジウムで報告したところによると、海上輸送費は、中国の欧米向け輸出増によってコンテナ不足が深刻になったことから、昨年10月から上昇基調となり今年2~3月にピークを付けた。バンコクから米国への海上輸送費は1コンテナ当たり1万米ドル(約110万円)となっており、昨年と同じ時期の2,000米ドルから5倍になっている。労働者不足は、新型コロナウイルスの流行、その対策で実施しているロックダウン(都市封鎖)が主因で、港湾の効率性を低下させているとされる。今年上半期(1~6月)のタイの輸出額は前年同期比15.5%増の1,323億米ドル、輸出額は26.2%増の1,299億米ドルだった。TNSCは、通年の輸出額は前年比7~10%増になると予測している。

### ◎ベトナム

#### 1. カットライ港、貨物の一部受け入れ停止=コンテナ山積みで一ホーチミン市

ベトナム・ホーチミン市のカットライ港の運営会社は、同港ではコンテナが山積みとなり、収納余地がわずかとなっているため、16日まで特定の貨物は受け入れないことを明らかにした。サイゴン・ニューポート・コーポレーションは1日、冷蔵貨物の受け入れを停止、5日からはサイズと重量が超過した貨物の受け入れも停止する。同社は海運会社に対し、各社の顧客にホーチミン市のタンカンヒエップフォック港、近隣バリアブントウ省のタンカン・カイメップ港といった他の港湾経由の貨物輸送を説得するよう勧めている。同社によると、新型コロナ流行、多くの会社が事業の一時停止や縮小を迫られたため、コンテナの山積みが発生した。厳格な社会隔離措置が講じられたこの数週間で、貨物を受け取りに来るトラックの数が激減し、コンテナの山積みにつながったという。同社は貨物処理を調整するため、これからの2週間に船舶で到着する貨物および空輸によるコンテナの推定数を報告するよう海運業者に指示した。

#### 2. 3割超の工場が停止=新型コロナ予防の「工場合宿」対応できず一ベトナム繊維業界

ベトナム繊維協会(VITAS)によると、新型コロナウイルスの流行を背景に全国の繊維・衣料品工場の30~35%が操業を停止した。各企業は、操業の再開に必要な工場の敷地内に労働者を合宿させて宿泊・飲食サービスを提供するための資金を十分に確保できないという。協会のブー・ドク・ザン会長は、「こうした企業の多くは、中小企業を中心に長期の操業停止を強いられるだろう」と語った。「工場合宿」は、国内の繊維会社の経営を安定させる上で大きな課題になっている。ザン会長は、繊維業界における新型コロナワクチンの接種率の低さにも懸念を示した。南西部、南東部の繊維企業が集積する主要地域で、特に接種率が低水準にとどまっている。繊維協会は他の業界団体とともに、ファム・ミン・チン首相に書簡を送付した。ワクチン接種の加速と、輸出関連の事業者

が労働者に接種するワクチンを購入するのを支援するよう求めた。ザン会長は、新型コロナ予防の厳格な制限措置が実施され、南部を中心に特に厳しい時期になると述べた。繊維業界のサプライチェーン(供給網)の最大90%で障害が生じているとしている。多くの労働者が地元へ帰省するために急いでホーチミン市を離れたことも懸念材料の一つ。近い将来に深刻な労働力不足が起きる前兆になり得るとみられている。

## ◎シンガポール

### 1. 全病院で見舞客の立ち入り禁止、5日から

シンガポール保健省は4日、国内全ての病院で見舞客の立ち入りを原則禁止すると発表した。施行期間は5日から18日までの2週間。医療機関で新型コロナウイルスの感染者が増えているのに伴い、院内感染を防ぐための暫定措置として実施する。重篤な症状がある入院患者や小児科の患者、出産を控えた女性、産後ケアが必要な女性を見舞う場合は、例外として立ち入りを認める場合がある。各病院に可否の判断を任せる。精神疾患の患者をケアするための面会なども、例外措置の対象となる。見舞い訪問を認める場合、入院患者1人につき、訪問者は1日当たり1人まで、滞在時間は30分以下に制限する。重篤な症状がある患者は、事前の面会予約を最大5人まで受け付け、同時に訪問する人数を2人まで、滞在時間を30分以下とする。患者への特別なケアのために30分以上滞在する必要がある訪問者については、事前に新型コロナの抗原検査を受けてもらい、陰性の証明を求める。保健省は3日、東部にあるチャンギ総合病院(CGH)で新たなクラスター(感染者集団)が発生したと発表していた。

## 《一般情報》

### 《ラオス》

#### 1. 体操女子のリー、モン族誇り胸に

東京五輪の体操女子で計3個のメダルを獲得した米国のスニーサ・リー(18)は、中国や東南アジアの山岳地方で暮らすモン族の血を引く。米中西部ミネソタ州セントポールで生まれ育った。隣接するミネアポリスで昨年起きた黒人暴行死事件を巡り顕在化した人種問題に傷ついたリーは、五輪での活躍がモン族の誇りを高めることを願っている。**ベトナム戦争期、ラオスなどのモン族は地域の共産化を防ごうとした米中央情報局(CIA)に協力。その後一部が米国などへ渡り、全米で約30万人いる。リーの両親もラオスから逃れてきた。**白人警官による黒人男性ジョージ・フロイドさん暴行死事件が昨年5月に起きると、全米に抗議活動が広がった。米紙によると、リーは「抗議デモには行かなかったが、怒りの理由、変化への願いは理解していた」と、複雑な人種問題への心情を述べている。しかし事件の余波は、苦勞して商店主や教師、警官になるなど米国社会に溶け込んだとされるモン族社会にも思わぬ形で及んだ。主犯の白人警官の傍らで市民を近づかないようにさせた警官がモン族だったのだ。「モン族の人々が良く思われるように私は努力してきた。私たちへの評価に大打撃だった」。リーはインタビューで語っている。**人種差別抗議デモの怒りの一部はモン族にも向かい、モン族が経営する商店が略奪に遭い、リーの自宅庭にも物が投げ込まれた。**最後の種目を終えた3日、記者の質問に「五輪中は自分の体験を忘れようとしたが、それは難しかった」と告白した。この1年、新型コロナウイルス感染症などで親しい親戚を相次いで亡くしたほか、左足骨折という不運にも見舞われた。7月29日、個人総合で金メダルが決まると、中継を見守っていた父のジョンさんは「私の家族、世界のモン族にどれだけ重要なことか」と喜んだ。リーはモン族の人たちに「夢はかなえられること、好きなことに打ち込めば良いということを知ってほしい」と訴えた。